

## 平成 28 年度 放送番組審議会議事録

【開催日時】 2016 年 11 月 29 日（火） 午後 2 時 00 分～3 時 30 分

【場 所】 J:COM 下関 2F 会議室

### 【出席者】

放送番組審議委員会：7 名 ※敬称略・順不同

#### 会 長

河向 英利 （山口県商工会議所連合会 常務理事）

#### 委 員

高山 剛 （下関商工会議所 事務局長）

辻屋 誠 （株式会社山口銀行 取締役本店営業部長）

沼 孝宏 （サンデン交通株式会社 取締役総務部長）

砂原 雅夫 （下関市総合政策部政策調査官）

山本 昌信 （林兼産業株式会社 常任監査役）

宇和島 正美（株式会社みなと山口合同新聞社 執行役員山口新聞営業局長）

放送番組審議会事務局：7 名

鳥居 吉治 （株式会社ケーブルネット下関 代表取締役社長）

藤野 悦郎 （株式会社ケーブルネット下関 常務取締役）

村井 光二 （株式会社ケーブルネット下関 地域プロデューサー）

仲川 圭 （西日本メディアセンター センター長）

折田 康男 （西日本メディアセンター アシスタントマネージャー）

山下 真由美（西日本メディアセンター 制作グループ）

高野 晴香 （西日本メディアセンター 編成グループ）

### 【議事内容】

#### 1. 開会

a. 会長挨拶（河向会長）

b. 新任挨拶

高山 剛 （下関商工会議所 事務局長）

辻屋 誠 （株式会社山口銀行 取締役本店営業部長）

c.ケーブルネット下関代表挨拶（鳥居代表取締役社長）

地域密着の企業として、昨年の番組審議会でもいただいた貴重な意見を生かして様々な番組作りに取り組んできた。今年もみなさまから忌憚のない意見を頂戴したい。

※ここで番組審議会事務局メンバーを紹介。今年度設置した地域プロデューサーについても説明

2. 番組編成方針について（仲川西日本メディアセンター長）

西日本 MC に着任して早 1 年が経った。この 1 年下関でどのようなコミチャンを放送してきたか本日みなさまへご報告したい。本日は皆さまから貴重なご意見をいただきたい。

J:COM の 2 つのコミュニティチャンネル「J:COM テレビ」と「J:COM チャンネル」について説明。「J テレ」は全国約 70 局に発信するひとつのチャンネルでコンセプトは「地域発！全国」。「J チャン」は各地域に特化した“どローカル”をコンセプトに全国約 70 局の地域ごとに、地域情報をきめ細やかに発信している。

西日本メディアセンターの組織、下関局エリアの視聴可能世帯数について説明。今年度の下関は、地域番組の定着化、どローカル編成方針に沿った新番組の拡充、プレゼンス向上に繋がる特別番組の増加、安全安心への取り組み、他社との協業による地元メディアミックスを目標に様々な取り組みをしてきた。

3. 2016 年度放送番組内容について（仲川西日本メディアセンター長）

a.2016 年度自主制作番組内容説明

「コチらふくふく情報局」

週更新の 30 分番組。下関の情報番組として、裾野を広げさまざまな地域情報を発信している。

「わくわく 1 年生」

2016 年 10 月スタートした新番組。コチらふくふく情報局のコーナーとして、地域の小学 1 年生がカメラに向かって将来の夢を元気に話すミニ番組。

「下関人図鑑」

2016 年 10 月にスタートした 14 分尺の新番組。下関市内で活躍している人や団体の「人」と「なり」に触れるトーク番組。これは、ジェイコムグループ全体で取り組み放送している番組。画面上に出すテロップ等必要最低限のものだけにし、手書きのテロップを使用するなど非常にシンプルでストレートな番組に仕上げている。

本日出席している山下（西日本メディアセンター）が MC を務め、ゲストの思いを上手く引き出している。

#### 「ほっちゃタイム」

スポーツイベントと演奏会などの文化イベントを放送している 54 分の長尺番組。地域の小さなジャンルのイベントを取り上げ放送している。

#### 「関門海峡花火大会生中継」

8/13 に 3 箇所カメラを配置し生中継を実施。視聴率も高く、視聴者から大変好評いただいた。地元企業からも関心の高い番組ということで、事前にたくさんの広告をいただいて制作した番組。

#### 「九州山口エリア共通番組」

発見！筑紫の歴史「時空の旅人」では 2016 年 1 月に赤間神宮を特集放送。山田としあきの「ひと駅歩こう」では 2016 年 5・6 月に下関駅～唐戸市場・火の山公園を特集放送。西日本全域の番組でも歴史深い下関を取り上げ放送した。

#### 「地域連携番組」

サッカー J2 レノファ山口 FC の熱血応援番組として「レノファスクエア」を放送。「維新碑探訪 長州人の生きた道」は、激動の時代を生きた長州人をクローズアップした歴史ドキュメンタリー番組。

#### b.番組ご視聴

上記説明した番組のダイジェスト DVD をご視聴頂き、各番に組対してご意見を頂いた。

委員) 人図鑑は全国共通とのことだが、読み方は“ひと”ずかん？“じん”ずかん？タイトルに漢字が並んでいるので固く感じる。「ひと図鑑」であればもう少し番組の雰囲気やわらかくなる。お堅い人ばかりが出演すると、退屈と飽きがきてしまう番組になりそう。

事務局) MC やディレクターのスキルにもつながるので、工夫して飽きが来ない番組にしていきたいこの番組は札幌からはじまり、以前は WEB で放送していた。西日本エリアでは月 2 回の放送だが、札幌は、より多くの札幌人を紹介するというコンセプトのもと、毎日日替わりで放送していた。これからもっと番組が定着していくのと同時に西日本エリアも更新頻度を高くしていく予定。

委員) 下関人 図鑑？下関 人図鑑？どこで区切るのか分かりずらいためタイトルを工夫して欲しい。

委員) 番組に対してスポンサーはついていないのか。提供テロップは放送しているのか。

事務局) 提供テロップ実施済み。先日放送した関門海峡花火大会生中継は番組内でテロップで掲出している。DVD ご視聴いただいたものはダイジェスト版なので割愛させていただ

いているが、テロップだけではなく協賛 CM も番組内に入れている。

委員) 以前、道に関する番組をみたが、現在放送はしているのか。

事務局) 「下関さんぼ」として放送しているが、更新頻度は低め。

委員) 昨年、番組内への地図の挿入について話したがまだまだ番組中にあまり使われていない。散歩番組など、詳細の地図については個人情報になってしまうため工夫が必要だが、散歩しているエリアを大きな地図にマーカーして番組に使うと良い。

事務局) 番組内に少しずつ入れてはいるが、まだまだ露出が少ない。もっと工夫して番組内に取り入れるように番組制作をする。

委員) 今回視聴した DVD について、たくさんの番組があり 1 つ 1 つの視聴時間が短い、もっと 1 つの番組を長く見せてほしい。人図鑑については、どこかで聞いたことがある有名な方ばかりなので、もっとローカルな商店街の方など身近な街の人を紹介してもいいと思う。

事務局) DVD の制作方法については来年の番組審議会への参考にさせていただく。まず、全体像を見ていただいて、いくつかポイントとなる番組を長めに視聴していただく形に変えて対応する。

委員) 花火の生中継はとて面白い番組と思うが、このエリアにお住いの方だけしか視聴できないのか。

事務局) 関門海峡花火大会生中継含め、バリューの高いものについては全国放送していく方針。今回は残念ながらリオの放送と時期が被ってしまって「Jテレ」での全国生放送ができなかった。なお、後日「Jテレ」で全国録画放送を行った。

委員) 下関エリアだけではなく、全エリアでの放送を考慮して放送してみても面白い。例えば、札幌の方が下関の番組をみて下関にきたいと思えるような番組編成にしてもよい。

事務局) Jテレでは曜日・時間別に地域特集を組んでいる。その中で、下関に限らず九州の番組を放送する時間帯を設けている。

委員) 逆にあまりにローカルすぎるのもどうだろうか。例えば、地域の小学校の運動会を何度も放送すると、家族にとってはいいがそれ以外のどんな人が見るのだろうかという疑問に感じることがある。バランスを取るの難しいと思うが、どのように対処していくのか。

事務局) リピート放送がある点は弊社のいい点ではあるが、ご指摘の通り何度も同じ番組を放送するのは、確かに受け取り側にとっても印象が変わってくる。ローカルにこだわりつつも、もっと幅広い起点を聞かせた番組が制作できるように精進していく。

委員) 下関さんぼは、エリアが広すぎるのももう少し狭いエリアで番組制作をしてみてもよい。いつも何気なく通っている道だけど、本当はこんな歴史がある、など新しい発見が得られるような番組にしてほしい

委員) バス停で降りたらこんなスポットがある、などストーリー性を持たせても面白い。

事務局) 他局では、バスからの車窓を紹介している番組もあった。なかなか好評な番組だった。

委員) 視聴可能6万3千というのは、コミチャンが視聴可能な世帯数という認識でよいか。  
事務局) 実際の有料契約は半数の3万世帯。その他は電障地区や、集合住宅への再送信世帯数を含んでいる。

委員) 「ひと駅歩こう」の特集放送をしたとのことだが、通常は福岡のみの放送なのか。

事務局) 福岡発の番組で、人気も高いためエリアを広めて下関を取り入れた。

委員) とても面白い番組なのでぜひ積極的に下関にきて放送してほしい。

#### 4. 2017年度について(仲川西日本センター長)

日々のニュース、トピックスを放送していくデイリーニュースを下関でも立ち上げたいと思っている。費用・体制等クリアしなければいけないことはあるが、実現させるために皆さまからのご意見を頂戴したい。

委員) 対象世代によって、必要する情報が違うのでなかなかネタの選出が難しい。番組を継続させるために、ネタを探すようになってしまうと番組としての質も落ちてしまうのでそこが懸念される点ではないか。こういったものを取り上げるのか、軸を決めてやるという。

委員) 情報の吸い上げはどのような方法で実施する予定なのか。

事務局) これからの課題。テレビからの情報はプッシュ型が基本だったが、現在 WEB や SNS 等で自ら情報を取りに行ける環境にある。「地域住民の方と一緒に作る」というのが大事。地域の方からネタ提供していただけるような関係性を目指す。

委員) 双方向のコミュニケーションで「どローカル」にしていくことが今後の課題。

委員) 地域別の特派員を選出して、トピックスを提供や生電話で出演してもらうのも面白い。デイリーニュースの立ち上げは、地域発信ということでどんどん進めていただきたい。

事務局) そのために地域プロデューサーというものを配置しているので、地域と一体となった番組作りを目指していきたい。

#### 5. 来期からの新会長・新副会長選任

高山委員を会長へ選任

砂原委員を副会長へ選任

以上